

東原中学校同窓会会報 No.17

題字 駒井研和(聰) (25期生)
発行責任者 大倉光男 (18期生)

●インタビュー

頑張る同窓生

矢崎 裕幸さん



(24期 昭和50年卒業)

今回の〈頑張る同窓生〉は、24期生の矢崎裕幸さん。2月中旬過ぎ、京浜東北線大森駅近くのお店をお訪ねした。

中学時代の思い出

昭和34年3人兄弟の真ん中次男坊として生まれる。長男は東原中バレーボール部を立ち上げた。本人は当時は目立たない生徒でぼーっと過ごしていた。杉九卒業後東原中に進学、戦車のプラモデルが大好きで結構集めていた。クラスは4クラス、特に池田先生、長内先生、花岡先生にお世話になった。クラブはサッカーチームで顧問は池田先生。協調性はあるが自主性が足りなかった。校内も落ち着いていてそれなりに勉強もしていた。生まれは大森だが小学生の頃、父親の経営するバーの閉店を機に関東バス営業所近くに移り住んだ。杉九、東原のいっぱい遊んだ思い出の多い9年間は特に印象に残っているようだ。5歳の時、東京オリンピックを見ていた。好きな女の子はいたが想いだけだった。中学は入った時から私服である。学生服で通っていたが（学生服の下はパジャマのまま来ていたこともあった。）木造校舎から鉄筋校舎に変わりつつ、木造校舎も残っていた時代でした。今も変わらないが修学旅行は奈良・京都に行った。阿佐ヶ谷の自転車店F商会に入りびたりのサイクリング少年の日々を送っていた平和

ボケ時代だった。同期の同窓会は2年に1度開かれている。

技術者として

中学卒業後は東京工業高校（現駒場高校）に進学、卒業後は技術者として建設会社に就職、現場監督を長く続け、ディズニーランドの第一期工事の現場監督である。始発で行って終電で帰ってくる、夜も寝ないで現場に張り付き、睡眠時間3時間の日もあった。頭をフル回転すれば実力が出て来るもの。1つの現場で何百枚もの施工図（杭の位置、柱の位置）を描いた経験がその後の仕事に生かされている。ディズニーランドが出来上がってから子供に「この建物はお父さんが造ったんだよ」と説明し、感心された。そのお子さん（娘2人）はすっかり成長され、お孫さんも。就職しながら最終的には一級建築士の資格を取り、住宅の不動産部門の建築の責任者をしてきた。2年前の早期退職を機に、ショットバーを開店させた。幼い頃から父親にバーテンダーのノウハウを自然に教えられスマートなバーテン道を学んだ。バーをやるのが漠然とした夢だった。ウイスキーの味もたしなみながら成長し、現在に繋がっている。昭和45年建築の現在の建物の店舗を一級建築士の資格を生かし、全部を設計し、内装外装をリノベーションして完成させた。母親から贈られた父の現役当時の写真を見て店名「レンガ」を決めた。内装のクロスを煉瓦色にして、雰囲気を出した。煉瓦模様のクロスもあるがそれを使うと雰囲気が古めになってしまい、そこに設計者としてのこだわりを感じた。200種類を超えるウイスキーを求めて来るお客様や、女性一人でも遅く来たり、お話を聞いたり、したりの雰囲気を大事に、男性は飲み足りなくて、女性は話し足りなくてやってくる。早い時間はお酒の後に食事するマスターの同年代から上の世代、遅い時間は食事の後に酒を飲みに来る若い世代の来店と相手によってマスターの人生経験が生かされている。世間と一風変わったレシピで作るウイスキーチェリーフィズを

使ったカクテルは矢崎オリジナルだ。今後の抱負は繁盛店にすること。同級生の一人でもある小谷真司さんは今回の頑張る同窓生の紹介者でもある。

ウイスキーについて

趣味がそのままウイスキー。ウイスキーの魅力はもっとおいしいウイスキーを探し、飲んだことのないウイスキーを探す事。ウイスキー味が判る飲み方はやはりストレート。あとは水だけ。一気に飲まずに香りを楽しみ、我慢して口の中で味を楽しむ。飲んでから48時間でまた美味しく飲める。体质によって蒸留酒の合う人と醸造酒が合う人が居る等、ウイスキーの楽しみ方を教えて戴いた。シングルモルト（1つの蒸留所）・ブレンデッド・オフィシャル・ボトラーズなどそれぞれの意味を詳しく教えて戴いた。ブレンダーは同じ味を守るのが仕事だ。コーヒーのブレンドと共通点がある。夏と冬の寒暖差で熟成に影響する。日本のウイスキーはスコッチ、アイリッシュ、アメリカン、カナディアンに次ぐ五番目に位置する5大ウイスキーの一つだ。爆買いの影響で日本的一部のウイスキーは販売中止に。海外の蒸留所巡りがしてみたい。ウイスキーのあれこれを熱く語られる矢崎さんにウイスキーに対する思い入れの強さを感じました。



ハーフロックグラス ウィスキーと水を半々で楽しむ。ウイスキーのグラスもこれだけあるんです。

ショットバー レンガ

『営業時間』 平日 /19:00~ 翌2:00
日曜・祝日 /17:30~23:30
定休日 月曜・祝日翌日
東京都大田区山王2-8-8（大崎駅西口天祖神社右階段 上ってすぐ。）

TEL 03-6337-4073

① 河原商店 二代目 河原まりえさん

創業昭和 22 年。

裁縫道具（ボタン・糸・ゴム）から始まって手芸用品全般を扱う地域唯一の専門店。家庭でズボンやスカートを作るのが当たり前の時代から小間物・雑貨等、数千点の品ぞろえ。近所のお客さんはもとより遠方から訪ねて来られるお客様も多い。お客様の相談にも丁寧に応えるお客様志向の強いお店です。

② 菊寿司 二代目 本間雅晴さん

創業昭和 10 年頃。

先代が東中野の実兄の寿司店で修業し、阿佐ヶ谷で屋台から開業、戦時中は商売の中止を余儀なくされたが戦後は出前で忙しい時期もあり、お客様に正直に納得してもらう値段と商品を提供するのが商売のモットーです。豊洲新市場に長年の経験を活かし、新鮮なネタを仕入れに行く心優しい大将のいる菊寿司さんに是非足を運んでみてください。

③ 八幡煎餅 三代目 望月隆治さん

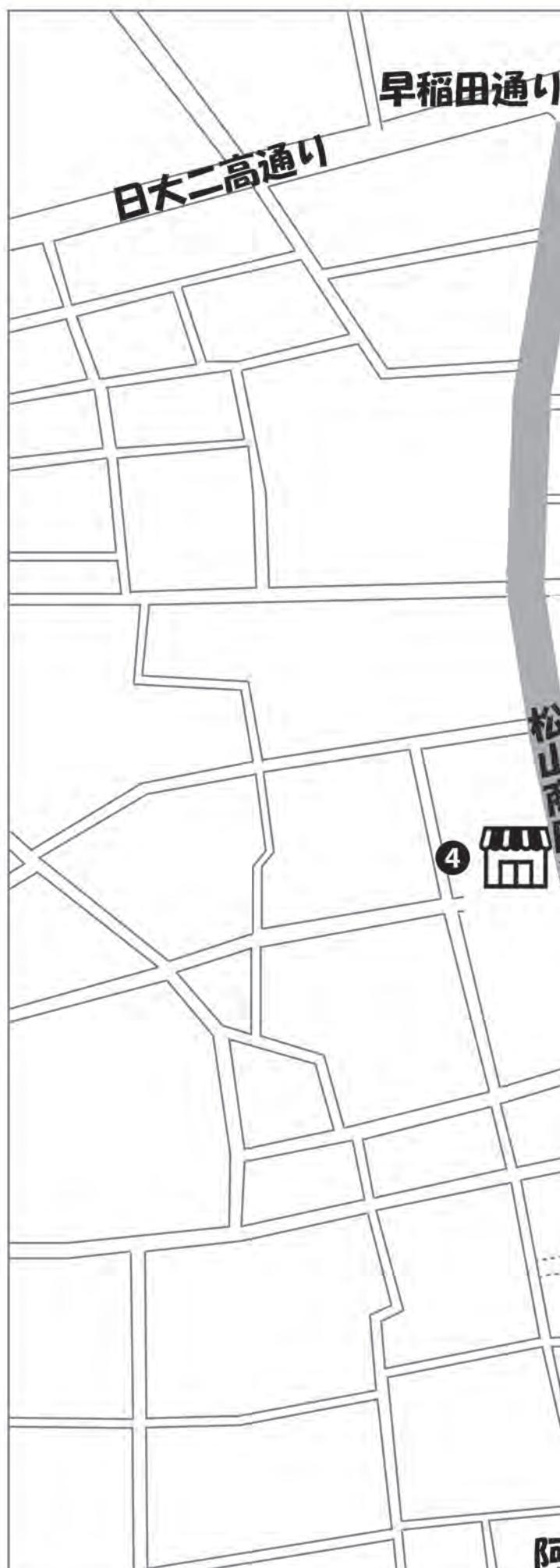
創業昭和 12 年 米屋さんで開業。

店名の由来は、代々木八幡の宮司さんより頂いた屋号の店からののれん分けです。マークが太鼓の模様からも納得できます。化学調味料や煎餅に貼る海苔用の糊等一切使わずに、50種類以上の煎餅作りを今も丁寧に続けているお店です。幻と言われている「赤飯」や「千葉産の半立落花生」はファンの多い商品です。皆さん是非ご賞味ください。

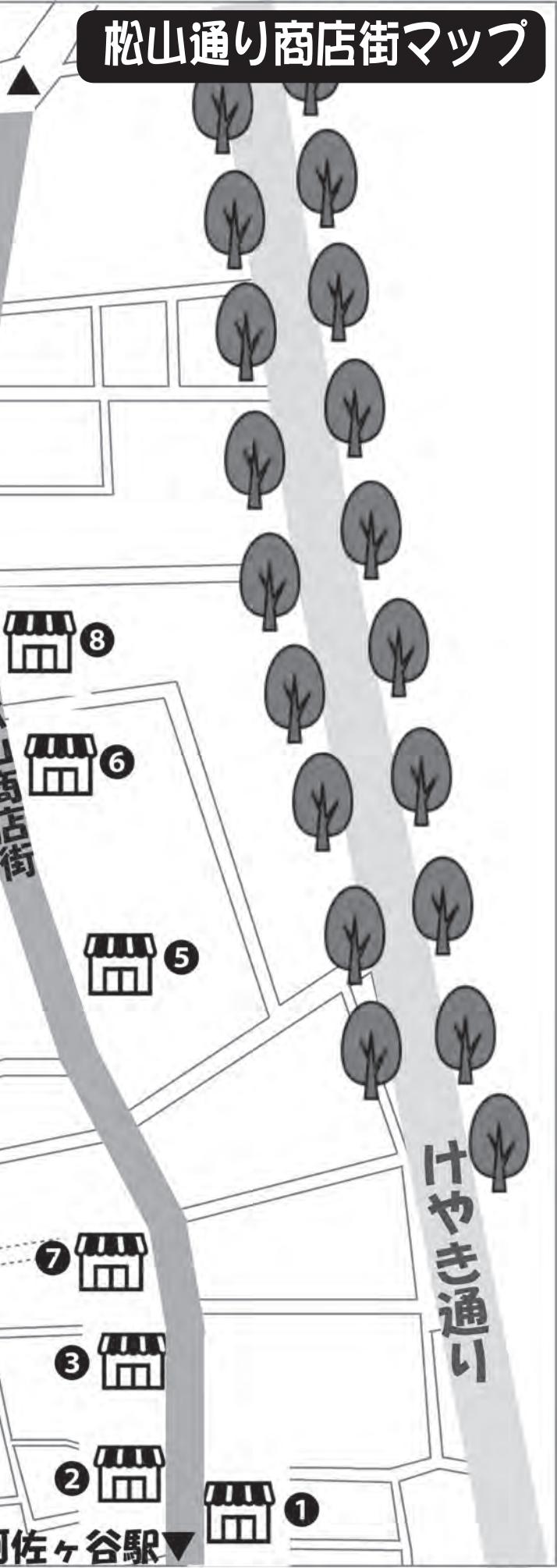
④ 高木理容室 店主 高木昌也さん

創業昭和 3 年 90 年の歴史。

浅草に有ったハイカラ床屋が戦争で焼かれ、阿佐ヶ谷に引越し開業した。床屋さんはどのお店もお馴染みさんが通う店。高木理容室も近くのお客さんはもちろん、引越しされた遠くからお馴染みさんが通う店です。居心地が良くホッとする空間作りが原点。親切丁寧をモットーにこれからも阿佐ヶ谷の地で理容室を続けられるようです。



松山通り商店街マップ



⑤ 勝見表具店 二代目 勝見勝利さん

昭和 19 年創業。

文京区諏訪町で初代が奉公した店が疎開で阿佐ヶ谷に移転し、現在三代目が切盛りしている。経師屋から始まり、当時はふすまが9割、現在は内装工事が9割。お客様第一が商売のモットーに近隣のお客様は勿論の事、集合住宅の内装工事まで手広く仕事されています。ふすまや内装の工事は是非問い合わせしてみてください。

⑥ 中華朝陽 店主 村山秀明さん

昭和 46 年頃の創業。

昨年 10 月に杉並区長より表彰を受ける。鉄道の駅員から台湾料理の修行を経て、中華料理を商売に。作ることが大好きだったご主人の人生のモットーは素直に生きること。三代に繋がるお客様もあり、阿佐ヶ谷姉妹もお馴染みのお店に是非お寄りください。お客様に「美味しかった」と言われるのが一番嬉しいと、ご主人談。

⑦ 三井精肉店 二代目 三井英夫さん

昭和 31 年頃の創業。

戦後すぐに初代が松山通りに開業した精肉店。名物のメンチカツにコロッケは6時間かけて1から手作りにこだわり、マスコミからの取材も多く、納得できる味に多くの馴染みとファンの多さがわかります。牛肉は勿論、埼玉産の「入間ブタ肉」が好評。サラダのマヨネーズも手作り、ご夫婦で二人三脚の対面販売を続けている地域に密着したお店です。特色的ある店作りがご主人のモットーです。

⑧ 坂江屋 店主 伊丹次夫さん

昭和 63 年頃の開業。

松山通りの旧三洋マートで 30 年近く鮮魚店を営み、当時鮮魚を卸していた関係で坂江屋の屋号と店舗を引継ぎ開業。寿司海苔以外は手作りにこだわった巻寿司、お惣菜、いなり寿司等を朝の 7 時 30 分から販売している。中野から買い求めるに来るお客様や色々の世代にファンの多い、細かい気配りを感じられるお店です。お客様を区別せず、儲け過ぎずに普通の商売をするのがご主人のモットーです。

●同窓会便り

てぶさたー

池田 雅子（28期 昭和54年卒）

映画「翔んで埼玉」で一躍有名になった埼玉県に結婚以来31年住んでいます。長男、長女は独立し、今は舅、夫、次男の4人暮らし。本家の跡取りである夫と結婚した時は、夫の祖父母も健在で姑や義妹も居り、お盆や彼岸には親戚が集い、年末は臼と杵でお餅つきをし、台所は土間。



かまど
竈や家の外にトイレもある家で「タイムスリップして民族資料館で暮らしているみたい」と思っていました。（今はリフォームして近代的な家に生まれ変わっています）そんな私の現在は… 4年前に実家の父が自宅で倒れ、その日のうちに他界。葬儀を終え明日から仕事に戻る。と言う日に、同居していた姑が自宅のお風呂で亡くなっているのを心配して様子を見に行った舅が発見。1週間のうちに実父と姑が突然亡くなるドラマの様な現実に、仕事も辞めざるを得なくなり生活もガラッと変わりました。



そんな時にカウンセリングを受け、『長男の嫁として自分さえ我慢すれば丸く収まる』という前提・思い込みのブロックを外した途端に悩みが少しずつ好転した経験から、自分と同じように、我慢して負のループに陥る人の助けになれば、と不要な思い込みや前

提を解除するセラピーのインストラクターの資格を取得し、その仕事をマイペースでしながらプライベートも充実させるべく、旅行やサイクリングを楽しむ日々を送っています。

もし明日命が尽きても後悔しない為「毎日ご機嫌に、いつかではなく即実行！」をモットーに楽しく暮らしています。

※写真は2月に夫と浜松の航空自衛隊に見学に訪れた際のものです。

藤島久美子（16期 昭和42年卒）



私が入学した昭和39年の10月、東京オリンピックが開催されました。見る種目はじゃんけんで勝った者順で選び、全生徒が会場に行き観戦しました。一番人気は体操。私は負けて陸上ででした。学区域を走る聖火ランナーの一人が3年生で、私達と同期の女子生徒の兄上だったと記憶しています。3年後の卒業時は、都立高校初の学校群制度の導入で先生も私たち生徒も戸惑いがありました。学校群制度は現在全廃、オリンピックは来年56年振りの東京開催で隔世の感があります。この頃既に食べ物は充分に有りましたが、卵もバナナも贅沢品でした。卵だけを売っている店が有り、パック等有りませんので割れないように巧みに新聞紙を折り畳んで包んでくれました。

我が家家の経済状態では卵を毎朝食べることは叶わず、そこで思い出す光景があります。朝登校して、ある友達

の口元に残る微かな黄色味を目にし、きっと卵ご飯を食べて来たんだと羨ましく思いました。中学時代の子供ながらにはほろ苦い思い出の一つです。

結婚と同時に勤めを辞めて専業主婦をしていましたが、次女の高校入学を機に大学の秘書の仕事を得て20数年になります。現在も自転車で数分の大学で働いています。私自身は歳をとる一方ですが、学生達は卒業、入学と次々に顔ぶれが変わります。仕事を始めた頃は学生達が子供に思え、いつの頃からか私の意識の中で孫となりました。若者の姿を常に目の当たりに出来るのは、この仕事の醍醐味と感じ楽しんで続けています。「三浦しをん」さんの小説「愛なき世界」（読売新聞連載後単行本）には私が仕事をしていた研究室がモデルで、年配のいなり寿司の上手な秘書として私も登場します。

数年前、着物の美しさに目覚めました。昨今は洋服風にアレンジしたり、着崩す人もいますが、帯を締めたら自ずと背筋が伸び、居住まいを正すような着付けをしたいと思っています。

60年の腐れ縁

鈴木 進一（9期 昭和35年卒）



「腐れ縁」とは、「良いことも知り、悪いことも知っている自分が長い間、心を許した人にしか使わない」と解釈したいものです。我々9期生は1960年卒、卒業してもう60年になります。

この間、ずっと付き合って来た仲間が4人おりますので、皆様に紹介したいと思います。

何年経っても「ヨージ」(和田洋治)、「テク」(藤井正彦)、「オポー」(刈屋澄世)、「シンボー」(鈴木進一)で呼び合っています。イケメンのヨージは元テニス部、テクとシンボーはバスケ部、オポーは水泳部でした。ヨージは脱サラ後、山梨で農業生産会社を起業、ステビアの有効利用を図っています。テクは土木・建築が専門、現在は兄貴が経営する建築会社を支援、出世頭のオポーは比国在住、40余年前マニラで海運事業を起業、現在も会長として東奔西走しています。「シンボー」も、昼はシルバー人材センターを手伝い、夜は中高生に英語を教える多忙な毎日を送っています。

オポーの東京出張時に集まる様にしており、昨年は6回程顔を合わせることが出来、同期の別府君にもご一緒頂く機会が有りました。もうすぐ後期高齢者の仲間入りですから、年相応に血圧や血糖値、コレステロール、腰痛等々健康談義も尽きません。幸い、皆それぞれ日々元気で働いている事、遠慮も無いが隠し事もない事が我々の絆を保っているのではないだろうか。又、共通の趣味の存在も人間関係の継続には大切な事で、我々の場合は囲碁・ゴルフ・麻雀でした。

昨年の9月の「東原音楽祭」には4人で参加、オポーには今後の発展を願って、二つ返事で多額の寄付をしてもらいました。感謝です。我々もいつもお迎えがやって来るか判りませんが、お互の人生を励まし合える仲間に祝福あれと感謝に堪えません。

山はかわらずそこにある

松井久二雄（24期 昭和50年卒）

この文章が載る頃には「令和」になっている。時が経つのは早い。東京の大学、大学院を出てから仕事の関係で、福島県いわき市、熊本県水俣市、茨城県猿島郡境町、静岡県富士市、と移り

住んだ。どこに住んでいても、休日は家にいないことが多く、海へ山へと出かけた。昔からアウトドアが好きなのは、東京で生まれ育ち海や山への憧れがあったからだと思っている。

でも大きなきっかけを与えてくれたのは東原中時代だったかもしれない。写真は中学3年の春休み高校進学前に、東原中の体育教員であった浅香隆先生に大菩薩峠に連れて行ってもらった時のものだ。雪山を知らないという僕らに、それなら教えてあげようと計画してくれた。新宿駅発23時55分各駅停車に乗るために、新宿駅アルプス広場に夜の7時頃から並んだ。満員車両の通路で横になって眠り、夜中の2時に塩山駅に着いた。寒くて真っ暗の中、始発バスが出るまで停車場のベンチで抱き合うように眠った。「こうすると暖かいんだよ」と先生は僕らの体に持ってきたビニール袋でぐるぐる巻きにしてくれた。



好天に恵まれ、山の美しさと楽しさを知った。そして少しの苦しさも。その後高校や大学で山岳部の様な本格的なサークルには入らなかったものの、この体験があったから成人しても山は僕の趣味のひとつになった。先生と生徒のこんな体験今の時代は難しいかもしれない。先生にはとても感謝している。

ところで最近4月に大菩薩峠に行く機会があった。この写真を思い出し、同じポーズで写真を撮ってみた。2つの写真の間に44年の月日があると思うと感慨深い。よく見ると大菩薩峠と



書かれた柱や看板は新しいものに変わっている。でも山はまったく変わらずそこにあった。大自然、地球、時の流れ…から見ればちっぽけな僕たち。いろいろ思いをはせる山行だった。

鈴木 礼子（32期 昭和58年卒）

32期の鈴木（旧姓佐野）です。実は私、修学旅行の翌日に転校した為、東原の卒業生ではありません。しかしアルバムや名簿に名前を残してくださった当時の諸先生や委員の皆様のお心遣いに感謝いたします。



東原と言ったらバスケ部の池田良平先生！りょっぺちゃんです。あの笑顔と水色ジャージ、そして根性棒忘れられません。「下を向くと痛いから顔を上げとけよ」とニコニコしながらコップツーン。痛いこと痛いこと。後は技術準備室での「くさや」食べ物とは思えないあの強烈な臭い…「これが美味しいんだ」と言う大人達。これだけは未だに理解できません。

そしてその準備室では、痛めた膝に毎日毎日テープを巻いて頂きました。あの大量のテープ、もしかしたら先生のポケットマネーで買ってくれていたのかもしれません。有難い限りです。怪我をして練習が出来ない私に「のんびりしていると抜かれるぞー」と笑顔で囁き、焦った私は、その日から生活の中でも必死で左手を使うようにしたのを覚えています。

引越ししてから池田先生と年に2回やり取りをしていた葉書、色あせてしまい時間の流れを感じます。先生の葬儀から帰る電車の中、これからもずっとバスケットに関わっていこうと決め、出産するまでは子供への指導やプレーヤーとしても頑張っていました。あれからうん10年、今はボールを少し小さくし、バレーボールとゴルフ、そして人生初の武道・薙刀も生涯スポーツとして始めました。昨年の秋からある理由があってウォーキングもする様になり、海岸や観音崎の山中、太陽のひかり・波の音・そよ風を感じながら散策しています。



子育ても終わり、自分の時間をゆっくり楽しむのに、ここ横須賀は最適だったと実感しているところです。皆さんも是非、ドライブがてら横須賀にいらしてみてください。

高田 京子（18期 昭和44年卒）

皆様こんにちは！私は18期1969年卒の高田京子（旧姓大柴）と申します。同窓会会長であり北斗発行責任者の大倉光男さんとは同級です。実は彼とは幼稚園（日大幼稚園）からの友人で、面倒見の良さ、人柄で今でも東原同級で杉九小学校からの友人とも交流があり、年に何回かはいろいろな思い出話

の語らいで盛り上がっています。そんな関係から今回「北斗」に載せて頂くことになりました。

最近は東原中学の方面にもなかなか行くチャンスはありませんが、昨年まで次男が東原のすぐ近く、昔の「ルーテル神学校」の辺りに住んでいたので、とても懐かしく思い、行った時に少しだけ散策してみました。あの【石原牧場】はどうなっているのか…私はあの一角だけの、なんかこんもりした別格な雰囲気が（ちょっと臭かったけど）好きでした。「この辺りかなー」なんて見当をつけ、探しましたが、あるのはやはり家ばかり。思い出のかけらもない！当たり前の事に新たに月日の流れを感じました。短い間でしたが次男がここに住んでくれた事に縁を感じました。

私は子供の頃からの想いであった幼稚園教師を貫き、5年前に退職し、現在は保育士の仕事をしています。毎日小さな子供達、若い先生達からエネルギーをもらい、歳を忘れさせてもらっています。40年近く子供達と接してきましたが、やはり、いろいろな変化を感じさせられます。子供は無色で生まれて来て昔となんら変わらないのですが、それらを取り囲む環境や人間関係がどんどん合理化され、スマホを見ながらお昼寝なんて〈今色〉に染められていく。「昔は良かった」なんて言うのは禁句だけれど、昭和生まれには残念に思うことが多い毎日です。でも体が動く限りこの仕事を続けて行きたいなと思っています。そんなことを思いながら、同級生との思い出の語らいを楽しみにして日々を過ごしています。同級生の皆様「私」を思い出してくれましたか？またお目にかかりましょうね。

東原で始まったバスケ人生

奥田 直和（12期 昭和38年卒）

1年生でバスケット部に入ったことが、私がこのスポーツを大好きになるきっかけになりました。入部の日に、

強面の顧問の山口勝作先生に、「1年はボールに触らせない。毎日フットワークだ。」と言われました。しかし、先生はあまり顔を出さず、優しい先輩方が、ドリブルシュートを何度も褒めてくれて、嬉しかったのを覚えていました。2年生からの顧問は、テニスで国体に出場した小板橋先生でした。背が高く若いハンサムな先生で、大会に行った時は、パンを抱えるほど買ってきて食べさせてくれました。一昨年でしたか、同期会で同じバスケ部だった伊藤君に会えて、懐かしくなりませんでした。その後、高校・大学で主将になり、優勝カップで回し飲みをしたり胴上げされたり、熱中して過ごしました。

一方その間、体をこわしての入院・療養・留年生活を味わいました。これまでとは打って変わっての青春時代の大きな挫折の日々でした。ようやく社会復帰してたどりついたのは、『スポーツ馬鹿では駄目だ、スポーツを人生の伴奏にしよう』という決意でした。いろいろ経験しましたが、今では半世紀を超えるバスケットボールとの付き合いになります。体の衰えは感じますが、シニア大会に出場して全国3位になったり、若者のチームで市大会に出たりして楽しんでいます。バスケ部だった子どもや孫と3代で同じチームで試合に出たこともあります。



※雑誌の表紙になった時の、左から孫・私・子の三代のバスケです。

バレーをやっている妻も、全国70才以上大会に出ています。その元気な姿には負けそうですが、今しばらくは家族や仲間に支えられ、怪我をしないようにボールを追って樂しみたいと思っています。同じ東原中出身の兄2人もやはりスポーツ好きで、いまだ

にサッカー関連の仕事をしたり観戦をしたりしています。互いに交わすメールもスポーツの話題が多いようです。

昭和・平成・令和

大野みどり（13期 昭和39年卒）

気が付けば今年71才。色々な人と出会い、様々なことがありました。小学校の頃、学習雑誌で見た『未来予想図』を見ながら、21世紀、私はその時何をしているのだろうと想像していたことを何故か今でも思い出します。

数年前、何十年か振りに東原中学校での同窓会に出席しました。周りの変わりように記憶がついていきません。鬱蒼とした木々の中にあったルーテル神学校は明るいマンションが立ち並び、学校の廻りも空地は無く、瀟洒な家が軒を連ねていました。



先日、日本で最後のコンサートというので、「プラザースフォー」のコンサートに行きました。外見は大分変っていましたが、その歌声とハーモニーは素晴らしかったです。高校時代から聞いていたフォークソング。色々な事が歌とともに思い出されました。ベトナム戦争、70年安保、大学での学生運動、ロックアウト、部室での友との語らい。東南アジアの「ランドオペレーター」への就職。その旅行の実態に失望したり、現地の貧富の差に胸を打たれたり、美しい景色に感激したり…

今は小学4年生まで居た横浜に住んでいます。私達はいわゆる「団塊の世代」、ベビーブームのため常に競争していたように思います。でもそんな中でも小学校・中学校・高校・大学と多くの友達が出来ました。子育て中も多くの人助けられました。私の貴重な

財産の一つです。

はたから見れば平凡な生き方でしょうが、多くの人と出会い、助けられた71年間でした。感謝。



今年は「Y-160」横浜開港160年。様々な催事も計画されています。是非横浜へも足を運んでみてはいかがでしょう。

今また東京に戻っております

一宮 義之（12期 昭和38年卒）

私は中野区立馬橋小学校を経て、昭和38年に杉並区立東原中学校を卒業、同時に千葉県船橋市に移り住み、周りは野菜畠や梨園が広がり環境良好、1期生として江戸川区の都立高校に入学。柔道の昇段試験を受験勉強より優先させた事もあってか、1年の浪人生活を経て、大学に進学、ゼミでは上級生に東原3A同組の沢根浩一さんがおり、1年間一緒に学ぶことに。資源の開発輸入に貢献したいとの想いで1971年商社に入社。しかし希望は叶わず、鉄鋼製品の国内販売部課に配属。その後、貿易業務に異動。



1973年同じ会社の女性と結婚。家族は関西出身で世田谷の北中部に居住、私共も1976年に、京王線の南側の松原に移りました。1977年米国会社に出向、2年後カナダ会社に異動。6年弱、輸入通関・在庫管理も含め、

日本製品の輸入販売を、他部門や周囲の協力を得て、鋼材販売業者、ガス・石油会社等向けに行いました。生活面では病気は一大事で、妻一人で病院に行き英和辞書を片手に悪戦苦闘。長男の食あたりでの入院や長女の出産と翌日の退院等もあって、妻には感謝。(妻は帰国数年後に、2度と海外駐在に同行しないと宣言。)



私は南部なまりや移住したての英國人の英語の聞き取りに苦労しました。バンクーバーではNHLプロアイスホッケーリーグ戦の結果が常に取引先との話の種で、スピード溢れる動きと、グラブを外し素手での殴り合いは番外編ながら、選手同士のぶつかり合う迫力は驚きました。1982年末帰国後、東京で輸出・国内の営業業務を経て、1992年支社勤務となり、5年弱広島で単身生活を。自動車・部品メーカー向け鋼板類の販売の責任者でした。商社は鉄鋼メーカーや顧客向けに業界情報収集や他ユーザーの動向を把握報告、ダム機能（在庫）を果たすという位置づけで、価格は鉄鋼・自動車メーカーと直接交渉・決定という事実を肌で感じたことも印象に残っています。



2012年に会社勤めを終え、朝晩の子犬の散歩や近くに住む長女家族に協力し、週3日2~3時間、妻と幼稚園児の孫の面倒をみるのが昨今の日課です。

東原中学校 創立70周年に着任して

東原中学校校長 小松進一

今年度、4月1日に着任いたしました校長の小松進一でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。私は、杉並に住んで57年になります。杉並第二小学校、東田中学校を卒業しているのですが、子供の頃は阿佐ヶ谷、高円寺、中野辺りまでしか活動範囲がなく、東原中学校学区は初めて訪れると言っても過言ではありません。3月末に学校に来た際は、時間に余裕があったので、自転車で地域を散策しました。落ち着いた住宅街の中にある学校という印象を持ちました。中野区にも隣接し、すぐ北側には中野区立小学校があることに驚きました。子どもたちも明るく元気に学校生活を送っております。5月8日から10日に実施した第1学年のフレンドシップスクールでは、1年生らしい元気で活発な2泊3日の校外学習でした。一日一日成長する姿を見ることが出来ました。

さて、今年度の東原中学校は、創立70周年になります。プールのフェンスには、『祝 創立70周年 杉並区立東原中学校』の横断幕を掲げました。少しでも皆さんとこの節目の年をお祝いするとともに東原中学校の歴史を感じていきたいと思っております。また、子どもたちにも何かの形で歴史を振り返る活動を考えており、同窓会の皆様にもご協力をお願いすることがあると思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○東原中学校学校運営協議会報告（平成30年度報告）

会長 真下 進（6期生）

2018年度は東原中学校運営協議会（以下CSと略します）が発足して3年目となりました。地域と保護者そして教員の3つの柱の強い絆で学校経営が実施され、生徒が人生で一番大切な時期と言われる中学校での体験を通して成長していくようにとの思いを協議会で共有してきました。東原のCS委員には元教育長、大学スポーツ指導者、地域の代表、区内ボランティア代表、元PTA役員、学校支援本部役員など多彩な陣営に加え、校長も積極的に取り組んでこられたことで3年目にしてようやく活動の基本理念が完成しました。「知」、「徳」、「体」3本の柱を理念とし、それを進めていこうとするものです。実行部門には学校支援本部があり、以前から支援本部が実施してきた活動内容、特に「知」への活動が軌道に乗っています。「徳」は東原中学校が持つ昔からの伝統、気持ちの良い挨拶がしっかりと浸透している事や、体育の剣道授業（これも学校支援本部の協力）における礼儀作法などが効果を發揮しています。「体」については授業や部活あるいは運動会等を通して着実に成果を出しているようで、ここは学校の立派な指導だと感じております。また教員や保護者の皆さんとの懇談会を通してお互いを知り合い、コミュニケーションを深める事も大切な事で昨年度はこのような試みも致しました。2019年度は引き続き教員、保護者の方々とのコミュニケーションを深めてCS委員一丸となり校長の進める学校経営を支援して参りたいと思います。

最後になりますが、4月でCS委員会発足時から尽力して頂いた渡辺宏校長が退任され、後任に小松進一校長が赴任されてきましたが、CS委員会の理念は何ら変わること無く継続されています。今後とも同窓生の一段のご支援を心からお願ひいたします。

○ 東原中学校学校支援本部便り

部長 大杉香代

同窓会の皆様、こんにちは。

新元号になり、学校支援本部に2名の強力新人を迎えて、新たなスタートを切りました。

定期考查前の放課後スタディ（年間5回実施）は同窓生の方々、東原卒業生の学生ボランティア100名（のべ人数）が参加。1年生を中心に集まった生徒数は348名（のべ人数）でした。環境美化活動においては毎年恒例となりました生徒による花ボランティア隊が卒業式、入学式には見事なプランターの花壇を作ってくれました。

**東原中学校で自分が中学生だった頃を思い出しながら
一緒にボランティア活動に参加してみませんか？**

下記アドレスまでご連絡ください。お待ちしております。

shienhhs@gmail.com

学校支援本部メンバーのご紹介

上段左より 清水ちえ、大杉香代、石渡智行、駒井 聰、大倉光男、板橋将隆、峰岸圭子。



● 同窓会だより

大倉光男 18期（昭和44年卒）

会長6年目になりました。同窓会員の皆様とともに同窓会の発展に微力ながら努めて参りました。同窓会ホームページは本年こそ充実な情報提供・情報交換の場となる様に更新して行きたいと思っております。

今後も同窓会員の皆様、地域の皆様、関係者の皆様のご理解とご協力を頂戴し、本年70周年を迎えます母校東原中学校の今後の発展に同窓会の皆様と共に尽力致したいと思っております。



6期同期会 令和元年6月8日 恩師 峰孝之先生、中道縁先生と共に 四ツ谷 東京ガス四谷クラブにて

第33期の同期会を開催しました。

33期 横田政直

第33期（昭和43年～44年生まれ）は（平成の最後）に50歳を迎えました。

『50歳を迎える節目に集まろう！』との声から始まり、時には探偵の様に繋がりを辿った幹事の努力もあり、前年2017年にプレ同期会を開催した後、54名の参加を得て第33期同期会は10月27日に阿佐ヶ谷駅近くの「スパニッシュ&イタリアンバルRISE」を会場に一次会、「海鮮大衆割烹・えんがわ」を会場に二次会と、恩師・佐藤設子先生も参加され、卒業以来では35年振りの再会に大変盛り上がりました。次の公式同期会は65歳？70歳？との声もありますがそれとは別に、年に一回、10月の最後の土曜日に軽い飲み会が企画される見込みです。



33期同期会 平成30年10月27日 恩師 佐藤設子先生と共に 「スパニッシュ&イタリアンバルRISE」にて

第16回 賛助金納入同級生 115名 303,000円

敬称略 現姓表示 平成31年3月31日現在

(1期・S27)	長谷川末廣	白浜 齊	野間 節子	山本 賢二	(20期・S46)	(27期・S53)
磯田 純司	服部 正子	諏訪喜代志	廣瀬 衛彦	(15期・S41)	守谷 英雄	増田 聰
大根川 孝	増田れい子	高田 弘子	横山 欣也	岡田眞理子	(21期・S47)	(28期・S54)
熊野 節子	山科紀久子	豊田千代子	吉村 邦夫	黒岩 正枝	池川 陽子	池田 雅子
篠田 圭恵	(4期・S30)	平山 正徑	和田紀久子	佐藤 泰子	原田佐和子	郡山 正子
田中 正春	石川 修平	眞下 進	(9期・S35)	(16期・S42)	(22期・S48)	高橋 錬介
中村 精良	阪口 嘉子	松本 征紀	田中 啓二	小泉 人三	河嶋 淳司	(30期・S56)
宮坂 恵夫	(5期・S31)	(7期・S33)	別府 良男	佐藤 光央	(23期・S49)	増田 剛
(2期・S28)	安成 和至	岩崎 一彦	渡邊 薫	菱山 康雄	仁平 雅巳	(32期・S58)
熊谷よし子	井上征一郎	滝沢 清	(10期・S36)	藤島久見子	(24期・S50)	鈴木 礼子
(3期・S29)	興水 直臣	中島 尚雄	稲田 欣也	(17期・S43)	岩本 幸子	(37期・S63)
市川 温意	金子十美代	横田 修	江川 隆子	川口 裕章	岡崎 茂	高橋浩一郎
井上 球子	近藤 昭子	(8期・S34)	沢田 郁子	(18期・S44)	小谷 真司	(39期・H02)
延命 進	桜井 伝蔵	板橋 将隆	(12期・S38)	天野 英男	近藤 敬	下坂 淳子
小幡 實	富田 祐一	太田 俊夫	上部 充子	大倉 光男	藤原 幸子	(41期・H04)
木村 雄次	吉田トシ子	小川 靖子	佐藤恵美子	小池 恭子	吉田 寛子	下坂 親皆
佐々 宣	(6期・S32)	黒須 敏雅	城内ふみ子	齋藤 總	(26期・S52)	(64期・H17)
鶴巻 勲	安野 豊	近藤 勝紀	高橋美智子	原田 直茂	郡司やよい	下坂さくら
殿村 正子	稻田 吉弘	齊藤 珍子	玉城 洋子	他 1名	佐野 道洋	
波多江和子	佐賀 律子	菅原都美枝	菱田 郁子	(19期・S45)	鈴木 英理	
二瓶 健次	佐藤 兆史	千田 典子	藤岡加代子	桜山 広明	山口希代子	

● 賛助金納入先

ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキュウ)支店	当座 0406561	東京都杉並区立東原中学校同窓会
みずほ銀行 京橋支店	普通 2729854	杉並区立東原中学校同窓会
西武信用金庫 阿佐ヶ谷支店	普通 1087407	東原中学校同窓会
なお、インターネットまたはATMからの送金の際には、下記の例のように振込人名の前に卒業期・卒業年をご記入ください。		
例：昭和54年卒業、第28期の場合…28S54（平成の場合はSをHに）・お名前		

平成30年度決算報告

令和元年度会計予算

平成31年3月31日

令和元年5月1日

平成30(2018)年度東原中学校同窓会決算報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)		単位 円	
収入	支出	科目	金額
新入会員入会金 36,049	会報印刷・発送費 291,690		
賛助金 303,000	事務費 6,258		
寄付金 0	会議費 0		
決算利息 4			
小計 339,053	小計 297,948		
前期繰越金 488,283	次期繰越金 529,388		
合計 827,336	合計 827,336		

上のとおり報告します。

平成31年4月30日

会計 原田直茂

令和元(2019)年度東原中学校同窓会予算

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)		単位 円	
収入	支出	科目	金額
新入会員入会金 26,500	会報印刷・発送費 320,000		
賛助金 300,000	事務費 10,000		
小計 326,500	小計 330,000		
前期繰越金 529,388	次期繰越金 525,888		
合計 855,888	合計 855,888		

概要
新入会員見込 53名 会報発行 12頁 2,500部

以上の会計報告を監査した結果、適正であることを認めます。

監査 駒井 聰
大杉 香代

● 同窓会役員（令和元年度）

敬称：略

名誉会長：小松 進一（東原中学校校長）	
会長：大倉 光男（18期 昭和44年卒）	
副会長：石渡 智行（25期 昭和51年卒）	
書記：菱山 康雄（16期 昭和42年卒）	鈴木 英理（26期 昭和52年卒）
坂口 雅代（26期 昭和52年卒）	宮城島正行（26期 昭和52年卒）
会計：原田 直茂（18期 昭和44年卒）	
監査：大杉 香代（24期 昭和50年卒）	駒井 聰（25期 昭和51年卒）

● 同窓会学年幹事（令和元年度）

各期順不同 敬称略 現姓表記

(1期・S27)	板橋 将隆	(17期・S43)	石阪みどり	森 里美	春日 雄哉	(59期・H22)	(63期・H26)
中村 精良	森 達郎	大場佐江子	田中 深春	(50期・H13)	廣瀬 友紀	板倉 純	駒崎 遼
五十嵐はるみ	葭田 光三	(18期・S44)	河西 良祐	外山 卓明	堀池裕一郎	小林 瞳	服部 優斗
(2期・S28)	椿 真里枝	大倉 光男	(28期・S54)	濱地 正志	木村 花菜	玉置 有生	西川 亜衣
加藤 昌俊	堀江美喜子	(19期・S45)	上杉 茂夫	斎藤 奈央	(55期・H18)	重國 聖羅	尾関 乃依
北沢専吉郎	布施 寿子	塚越 洋子	安達 知子	齊藤 葉月	鯉渕 敦博	中澤 和俊	(64期・H27)
穴山 壄子	(9期・S35)	松田 文子	郡山 正子	杉山亜希乃	柴田 さよ	浅見 凜	福島 遼
(3期・S29)	別府 良男	(20期・S46)	中山 真理	(51期・H14)	多田 健人	(60期・H23)	板谷俊太郎
小幡 實	(10期・S36)	幡鎌 俊行	福島 勉	野林 正寛	生駒 早織	榎本 健介	松本日菜子
小菅 和敏	池田 秀彦	守谷 英雄	(29期・S55)	福谷 洋介	池川 広太	藤野 大海	古谷 理子
鈴木 功一	柏井 光一	(21期・S47)	村山 友佳	山貝 和義	曾我 啓子	古谷 瞳子	(65期・H28)
(4期・S30)	久世 康英	池川 陽子	伊丹 由美	大場 悠子	(56期・H19)	山口佑理香	依田 政茂
内山 治俊	猪俣 澄	原田佐和子	佐々木瑞江	林 ちひろ	吉田 良之	菅原 拓海	成田 陽亮
谷岡 勝年	(12期・S38)	(23期・S49)	篠 直余	平岡 千景	眞中ひとみ	帆苅 正宗	海老 愛美
小関 啓子	菱田 郁子	篠 守彦	染野 歌子	(52期・H15)	吉池 大樹	小池 芽衣	一柳 美結
(5期・S31)	(13期・S39)	堤 健吾	森崎 五美	大塚 隆平	渡辺 樹里	森近 瑞偉	(66期・H29)
小笠原良行	小松 啓一	大野 雅子	(30期・S56)	齊藤 美都	辻本 翔大	加賀谷洸太	小寺 悠太
輿水 直臣	笹井 章男	田部 美樹	児玉 裕	小林 健太	大類 真喜	平野 一樹	鈴木 聖奈
桜井 伝蔵	高島 修	(24期・S50)	長谷川 徹	加藤 春日	(57期・H20)	古賀 愛海	篠崎 真
渡辺 雄司	西川 道子	松苗 宏則	増田 剛	平野 隆之	佐藤 堂	清水 勇気	綿貫 来美
(6期・S32)	渡邊多嘉子	藤原 幸子	宮下 稔	渡瀬恵理子	木村 真子	(61期・H24)	(67期・H30)
白濱 斎	(14期・S40)	(25期・S51)	伊藤 佳	吉田 将	榎本 康二	中島 俊平	小宮山純平
諏訪喜代志	竹下 英明	石渡 智行	(33期・S59)	(53期・H16)	天野 聰子	小澤 捷子	八木 望
平山 正徑	真下 忠夫	佐伯幸四郎	輿水 忠之	石原 康匡	阿部 圭介	三井 来人	加納 祐輝
真下 進	(15期・S41)	駒井 聰	佐藤 直秀	松本 理紗	山中佐和子	飯本日菜子	水澤 香織
山本 陽子	野呂瀬民知雄	福谷みどり	横田 政直	三浦 拓也	(58期・H21)	滝口 航	
(7期・S33)	秋山 裕子	(26期・S52)	(49期・H12)	小林 愛美	稻福 友佑	小松 由佳	
中村 功	船越 房江	佐野 道洋	佐藤栗里子	藤田ちひろ	隅田 夏帆	(62期・H25)	
船越 正義	(16期・S42)	宮城島正行	長島 淳一	西池 公寛	大久保秀作	工藤 源輝	(新任・太字)
山田 宗男	佐藤 光央	坂口 雅代	野本 知章	(54期・H17)	田畠 真実	新村 優花	
中村 鶴江	高橋 邦年	鈴木 英里	長谷川 智	本間 理	高寺 泰陸	元持 正博	
(8期・S34)	菱山 康雄	(27期・S53)	丸山 和美	楳川 景子	荒木 理沙	石原 佳奈	

● 北斗 17 号 編集委員・名簿管理者

委 員：板橋将隆 原田直茂 大倉光男 石渡智行

名簿管理者：大倉光男



杉並区立東原中学校同窓会会報

● 編集後記

北斗17号をお届け致しました。今号も前号同様の紙面構成です。
特集は阿佐ヶ谷松山通り商店街の頑張る商店を取材しました。
頑張る同窓生、ご無沙汰も多彩な方々の投稿を頂きました。
毎号のお願いですが、皆様からの賛助金が唯一無二の原資となります。
ご支援を宜しくお願い申し上げます。
より多くの同窓生に北斗をお渡し出来るように今後も努力いたします。

「北斗」17号

令和元年8月

東原中学校同窓会

杉並区下井草1-28-5

FAX. 03-3390-3588

編集責任者 大倉 光男

印刷：タイヨー美術印刷(株)